

<<大阪くらしの今昔館>>

大阪という街で、人々はどのように暮らしていますか？私は外国人ですけれど、留学生活の間、できるだけこの街の歴史、いまの人々の暮らしを知りたいです。なぜなら、暮らしを通じて地元の人々の考え方を理解して、国際交流に役に立ちたいからです。

さて、東梅田駅から地下鉄谷町線に乗って、天神橋六丁目駅を降りると、「大阪くらしの今昔館」があります。ここは江戸時代から昭和時代の大阪の暮らしを体験できるミュージアムです。

本物のような町をぶらり歩くと、まるでタイムマシンに乗った感じがします。江戸時代から昭和時代のおもちゃや天神祭りの道具などいろいろな種類の物が展示されています。当時の風情を感じられます。

残念ながら、今年、新型コロナウイルスの拡大を防ぐため、イベントやワークショップなどは中止されています。しかし、現在、今昔館では、「江戸時代の疫病退散」の展示会を開催していて、200年前の大阪人の疫病に対する考えと知恵を感じることができます。印象深いのは、展示物に赤いものが多いことです。赤い達磨、赤い起き上がり、赤い着物、赤い布団などなど。なぜ赤いものがそんなに多いのか？これは疫病から守る意味で、疫病の神様は赤いものを嫌うからです。

また、中国から、鍾馗（しょうき）の画像も展示されています。鍾馗は、中国の民間伝承に伝わる道教系の神で、人々の間で邪悪なものや疫病から家を守る魔除けの神として信じられています。まさか異国のここで自分の国のものを見られるのは思ってもなく、思わずにっこりしました。

<<大阪古今館>>

在大阪，当地人是怎样生活着的呢？作为外国人的我，在留学期间，想尽量地了解生活在大阪这片土地上的人们的生活。之所以有以上想法的原因，是因为我想通过这些了解大阪人的想法，希望能在今后的国际交流中派上用处。

从大阪中心的东梅田站乘地铁谷町线不过两站，便立马到了能够淋漓尽致地体现了从日本江户时期至昭和时期的当地普通人生活的实体体验馆。

信步走在同等实物比例大的街道，仿佛时空交错。在这里，我们能够从江户时期至昭和时期的玩具和举办了长达一千多年的被称作日本三大祭典的大阪天神祭的道具中，感受到当时的风情。

遗憾的是，古今馆出于对防止新型冠状病毒扩散的考虑，许多活动都被中止了。但是，现今，以江户时代的疫病为主题的相关物件正在展示中，从中我们能感受到大阪人对疫病的思考和智慧。令我印象深刻的是，到处都是红色，红色的达摩，红色的不倒翁，红色的和服……为什么有那么多红色呢？原来这是因为日本疫病的神明最讨厌红色。

当我看到源自于中国的钟馗的画像的一瞬，会心一笑。钟馗是中国民间传承的道教的神明，数百年来，中国的百姓中流传着其驱除邪恶守护家庭的美谈。能在日本看到钟馗，是多么不可思议的缘分啊。